

授業の改善・充実（英語）

1 単元をつくる

単元構成

必要に応じて
単元内容の構
成や単元を通
して行う言語
活動の設定な
どを工夫しま
しょう。

- 言語材料は何か、それらを言語の使用場面と関連させてどのように扱うかを明確にする。

【言語材料の明確化】【小学校外国語活動との関連】【中学校3学年間での学びのつながり】【4技能の総合的な育成】【4技能の統合的な活用】

- 学習到達目標（CAN-DOリスト）に沿った言語活動・評価規準・評価方法等を設定する。

【英語使用者としての具体的な生徒像】【学習到達目標（CAN-DOリストと単元の評価規準】

- 言語活動を発展的に設定する。

【目的や技能を明確にした言語活動の設定】【多様な言語活動の設定】【習熟を意図した言語活動から活用を意図した言語活動への展開】

2 授業をつくる

導入

生徒が学びの
主体となるよ
う、思考し、活
用し、気づく時
間を十分確保
しましょう。

- 生徒と教師が目標を共有する。

【学習到達目標（CAN-DOリスト）をもとにした目標の設定】【生徒のよさ・知的好奇心・主体性を引き出す目標の設定】

展開

- 学習到達目標（CAN-DOリスト）を意識した言語活動を設定する。

【4技能の統合的な活用】【自分の考えを伝える能力、思考力・判断力・表現力の育成】
【“その言語材料を用いて何ができるようになればよいか”の意識化】

- 英語科における言語活動の特質を意識する。

【言語の働きと言語の使用場面の明確化】【言語材料を理解し練習する言語活動とのバランス】【誤りを恐れずに言語を使用する場面と言語の正確な使用を意識する場面の設定】【既習事項から適切な言語材料を選択して使用する場面の設定】

- 言語活動で様々な教材を活用する。

【ピクチャーカードやフラッシュカード】【学校や地域素材】【ICT機器】【辞書】【他教科等での学習】等

- 生徒の学習状況を的確に把握し、評価する。

【言語活動における生徒の使用状況の観察】【多肢選択形式等の筆記テスト】【パフォーマンス評価】

終末

- 生徒が振り返りを行う場面を設定する。

【学習到達目標（CAN-DOリスト）の活用】【授業でできるようになったことへの気づき】【家庭学習や次時の学習への動機づけ】